

経営比較分析表（平成28年度決算）

埼玉県 越谷・松伏水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	76.28	99.99	2,754	

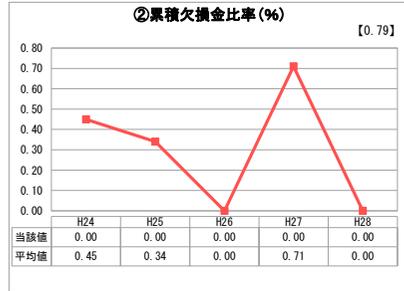
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
369,625	76.44	4,835.49

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成28年度全国平均

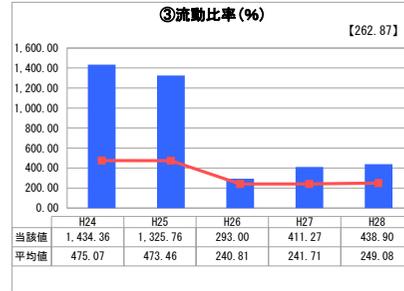
1. 経営の健全性・効率性



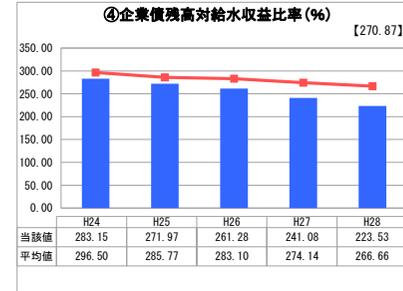
「経常損益」



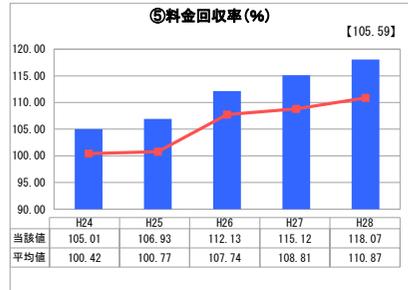
「累積欠損」



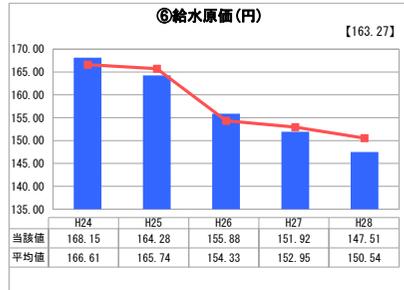
「支払能力」



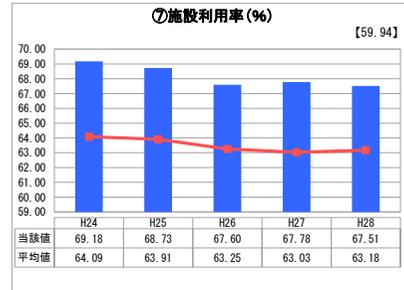
「債務残高」



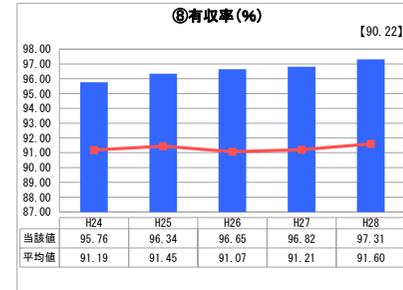
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

・平成28年度の経常収支比率は100%を大きく上回っており、収支は健全な水準にある。また、給水原価は類団平均値より低く、料金回収率も100%を超えており、経営に必要な経費を料金で賄うことができていく状況であり、経営の健全性が確保されている。

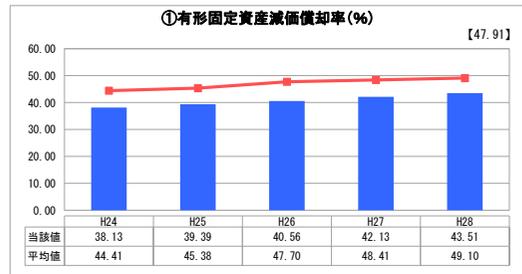
・施設利用率は、水需要の減少と共に低下する傾向にあり、水道施設の更新の際にはダウンサイジングやスペックダウンを考慮し、さらなる水需要の減少に備えるべく計画的な対応を図っていく。

・有収率はこれまでの漏水対策の効果により、引き続き高水準を維持しており、効率的な水道事業が行えている。

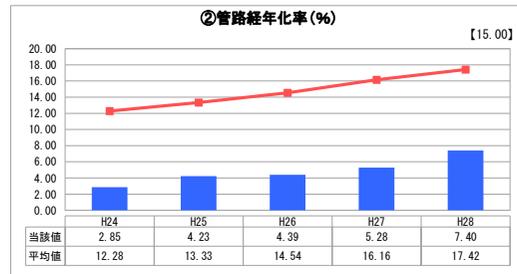
2. 老朽化の状況について

管路経年率は徐々に上昇しているが、類似団体と比較すると経年率は進んでいない状況である。今後もアセットマネジメント手法による資産の適切な管理と計画的な施設の更新により、強靱な水道の構築を進めていく。

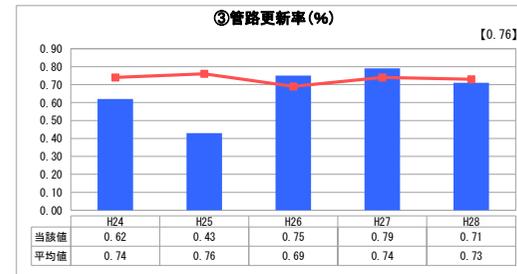
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

全体総括

今後も水需要の減少が見込まれるが、水道は社会生活と経済活動に欠かすことのできないライフラインであることから、災害に強い「強靱」な施設により、「安全」で良質な水を「持続」して送り続けられるよう、より効率的な水道事業経営に努めていく。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。